

## 第5回四日市市行財政改革推進会議概要

日時:平成14年9月27日(金) 午後2時～4時

場所:市役所11階第4委員会室

出席者:委員 ----- 丸山 岩崎 伊藤 稲沢 大矢知 鹿嶋 後藤 藤田 (敬称略)

### 1. 開会

収入役あいさつ

希望の家の廃止条例が9月議会で可決された。今後、移管先法人の選定等慎重に検討して進めていきたい。

会長コメント

希望の家については、これからが重要。受け入れ団体の公募、移管後のチェックについてもきちんと見ていきたい。

### 2. 審議事項

#### (1)行政評価について

行財政改革推進室長より市が取り組む行政評価システムについて説明

- ・業務棚卸表(組織の使命と達成のための手段を明らかにしたもの)を基本にした評価システムを導入。
- ・平成15年度予算編成から総額管理枠配分方式を採用し、業務棚卸表(評価)を活用して事業の選択、見直しを行っていく。
- ・将来、市民に分かりやすい形にして情報公開していく予定。

委員からの意見、質問等

- ・行政評価は、市民の生活をどのように変えていったのかという業績・成果の視点で、税金がどのように使われているのか、市役所の仕事をもう一度見直していこうという発想から生まれている。
- ・使われた税金が市民の生活にどう働いたかを測り、税金をより効率的に使うための計画を立て、実行するというマネジメントサイクルを形成することが大切。
- ・今後、税収の減少が見込まれる中では、歳出も減少させなければならない中で、四日市市では、歳入に合わせた歳出の計画、返済能力に合わせた借金の計画を立てるという方法を取り入れたのは評価できる。
- ・歳入に合わせて予算を組んでいくためには、何らかの根拠が必要になる。市民に納得のいくように、自分達も仕事がよりしやすくなるように、評価を使って、重要度、緊急度、優先度等いろいろな観点から、事業の選択と集中を図りながら、各部局がもっとも効果の上がる予算を自ら組む。その道具に業務棚卸表(評価)を使うということだが、直ぐに完成したものにはなかなかかなりにくいと思う。実際には3年くらいかけてシステムがしっかりいけばいいのではないか。

[Q] 予算の枠配分方式の導入は、職員への負担増と職員間で混乱が生じないか？市民との間にトラブルが発生しないか？特に各種団体からの反発等も懸念されるがどうか？

[A] 予算の枠配分は職員からも議会からもかなりのリアクションがあると予想している。

- ・ここ数年は、減収分を起債(借金)や基金(積立金)の取り崩しでまかなってきた。しかし、これ以上起債を発行することは責任を後ろへ送ることになる。また、基金も枯渇してきた。ここで歯止めをかけないとどうにもならない状態。
- ・そこで、財政再建のための基本的な目標を掲げ、それを達成するためにはこういう方法しかないというところから対外的(市民・議会)にも理解を求める必要がある。
- ・今後、市民にもどんどん議論してもらうために、広報戦略も重要。

・市民等からの圧力に対して、きちんと世論の形成をしておくことは重要。

・評価の結果を市民にも公表することが大切。情報提供することで、受益者たる市民(賛成派と反対派)の間で議論が起ってくる。理想的には、行政はこうした市民の議論を調整する立場になっていくのではないか。

### 3. 次回の推進会議について

平成14年11月1日(金)午後

### 4. 閉会